

第1問

<出題意図>

問題の出典は、伊豫谷登士翁『グローバリゼーション』（ちくま新書，2021年）である。問題文では、移動と場所の視点からグローバリゼーションが問い直され、移動をめぐる従来の議論が正常状態としての定住から移動を逸脱とみなすがゆえに、移動の多様性が看過されている点を批判し、近年の欧米諸国への膨大な移民労働者の流入に対して、欧米諸国の排外主義的な運動の高まりを抑制する有効な手立ての欠如を問題視している。

第1問は、すべての設問において、社会の諸問題を根拠に基づいて筋道を立てて考え、自分の意見をまとめる「思考力・判断力・表現力」についてどのくらい備わっているのかを問う（問1～問5）。そのうえで、国際社会や地域社会が抱える課題に関心を持ち、かつその解決に意欲を持っているかどうか、「関心・意欲」を問う（問5）。

<解答例>

問1（20点）：④（南北）

問2（40点）：多様性が抜け落ちるのは、定住を正常な状態ととらえ、場所が固定的に想定されたまま、移動という逸脱した状態をいかに修正するのかということを重視してきたから。（76字）

問3（20点）：B（オスロ）

問4（20点）：介護や看護など、先進国社会の福祉サービスやケアワークに従事する移民労働者のこと。（40字）

問5（100点）：解答例省略

解答例

第2問

- 問1 ・AI が作った詩が指定した詩人（フィリップ・ラーキン）のもののようにあったこと。
・その詩がすでに作られた詩ではなく、オリジナルなものであったこと。
・その詩が瞬く間にできたこと。
(このうちから2つ)
- 問2 AI が作る詩のうち良作は1割程度にすぎないが、1分で60作も生み出すのだからそれでも十分許容可能な割合である。
- 問3 AI が人間のように書けるとなると、筆者のような作家は失職してしまうから。
- 問4 写真が発明されても、以前からあった絵画がなくなったわけではなく、新しい技術によって新しい芸術分野が広がっていった。
- 問5 Dangers of A.I. are often talked about in the media. For instance, some people say that A.I. will replace many jobs performed and increase unemployment. While this could happen, I don't see A.I. as a threat to society. In fact, I think it can improve life in several ways. For instance, A.I. could help doctors discover sick patients and improve medical treatment. It could also help factories and companies use less energy or materials, which would help save the environment. These are just two ways A.I. could help improve our lives, but they make me hopeful about a future with A.I.